

「はむらの道徳科授業指針」子どもの視点②

教材が魅力的である

学ぶ喜びのある授業づくりを行う上で、取り扱う教材が重要な役割を果たすことは言うまでもありません。子どもの心に響き、自己の生き方を深く考えさせる教材を活用することは、指導者の喜びでもあります。

もう一つ大切なのは、教師自身が当該教材の魅力が指導者として把握していることです。子どもの興味を引くことのみにとらわれず、「取り扱う道徳的価値について、何をどのように考えさせるのか」という本来のねらいに則して教材研究を行うことが、学ぶ喜びのある授業につながります。

<道徳科の教材の魅力>

- 1 子どもの感性に訴え、感動を与える。
- 2 人間の弱さやもろさに向き合わせ、生きる喜びや勇気を与える。
- 3 生や死の問題、先人が残した生き方の知恵など、人間としてよりよく生きることを深く考えさせる。
- 4 体験活動や日常生活等を振り返り、道徳的価値の意義や大切さを考えさせる。
- 5 悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題について深く考えさせる。
- 6 多様で発展的な学習活動を可能にする。

参考文献：平成21年度 教育課程説明会資料（文科省）



肝心なのは、問題の理解

作家・批評家 ギルバート・チェスタートン

解決策が分からないのではない。問題が分かっていないのだ

出典：「賢人たちに学ぶ 道を開く言葉」本田季伸著（かんき出版）

※ 問題の核心を捉えないかぎり、有効な対策は打てません。